《タイ》選挙結果を受けた連立工作の行方(下)
親軍政派・中立派のリーダーたち：プロフィール

3月24日に実施された総選挙(下院：定数500)を受けた次期政権の樹立では、プラユット現首相(元陸軍司令官)の続投を支持する親軍政派政党「国民国家の力党」、および中立派の諸政党は選挙管理委員会が総選挙の確定結果を発表する5月9日以降に連立政権に関する正式な交渉を行うとしている。その交渉を通じて親軍政派・中立派連立政権を成立させるようにと暗に意思表示をしているのが、5月4日に戴冠式に臨むワチラロンコン国王と、タイ国軍の最高実力者であるアピラット陸軍司令官である。

次期政権に向けた連立工作では、タクシン派の反軍政派政党「タイ貢献(プアタイ)党」を中核とする反軍政系の7党が3月27日に「(独自の見通しで)下院での合計議席が過半数に達した」として連立を組むことで合意した。親軍政派政党「国民国家の力(パラン・プラチャーラット)党」は、この7党以外の「民主党」や「タイ威信党」などの中立派諸政党を糾合して、下院の議席数で反軍政派と拮抗する親軍政派・中立派連立を成立させなければならない(本誌前号の当欄「《タイ》選挙結果を受けた連立工作の行方(上)」参照)。「国民国家の力党」は「(反軍政派連立の)後を追う」形で水面下では5月9日を待たずに中立派諸政党と交渉を行っているのは間違いない。

王室と国軍が反軍政派連立を牽制

こうした政治的な動向と明らかに連動しているのが、ワチラロンコン国王が反軍政派の連立合意から2日後(3月29日)に、タクシン元首相に対して王室が過去に授与した勲章を剥奪するとの勅令を発出(30日付官報に掲載)したことである。剥奪の理由としては、「(汚職罪で禁錮2年の)有罪判決を受けながら、国外逃亡を続けている」ことが挙げられている。

国王がこのタイミングで勲章剥奪を決めたのは、「タイ貢献党」が元首相の影響下にあるという周知の事実に基づいて、「(自分は)タクシン派主導の反軍政派連立政権は望まない」という政治的意思を間接的に表明したとみてよいだろう。

一方、4月2日には、アピラット陸軍司令官(大将)が、国王の近衛師団である第1師団(バンコク)の創設112周年記念式典で挨拶した中で、「国内には現在、タイの立憲君主制を変革し国民を分断しようと策動している左翼勢力がいる」として、「そのような策動は結果として内戦を招くことになる」と厳しく警告した。

これに関連して、同司令官は、「タイ政治を『民主陣営』と『独裁陣営』に分けて論じるのは止めるべきだ(中略)。私はタイ国民を路上で戦わせ、治安混乱を引き起こす策動は絶対に容認しない」と言明した。

また、「違法行為に関与した富裕な人々は、海外に逃亡せず、国内法に則った裁判での判決に従い服役している」とも語ったが、この発言は、国王が3日前に発出した勅令を受けて、タクシン元首相を批判したのは明らかである。

さらに、ワチラロンコン国王は4月7日付官報で、タクシン元首相に授与されていた「国防義勇軍大将」の名誉階級も剥奪するとの勅令を公示した。タクシン派主導政権に反対する意思を、念を押す形で表明したととれる。

こうした王室や国軍の反軍政派連立政権の誕生を牽制する意思表明は、特に「民主党」、「タイ威信党」、「タイ国家発展党」などの中立派諸政党には、「国民国家の力」との連立参加に向けて「後押し」とも「圧力」とも受け止められているはずである。戴冠式直後に始まる目に見える形での連立工作で王室や国軍の意に沿わない選択ができるかということだ。

比例代表議席数の算出方法で混乱

一方、選官は4月11日付声明で、下院の比例代表(定数150)の議席を各政党の小選挙区での総得票数から算出する方法(「混合議席比例代表制」)について、総選挙に関して規定した憲法91条と下院議員選挙基本法128条の間に相互矛盾や解釈の問題が発生しているとして、同委員会が憲法裁判所の裁定を仰ぐことにしたと発表した。

選管は、各党の比例代表の議席数では、本稿執筆時点(＝4月19日)までに暫定結果さえ発表できないできた。親軍政派・反軍政派の間で熾烈な連立工作が進行している中で、「行司役」の選管が「比例代表議席の算出方法で混乱している」ことを認めた形になっている。これは、総選挙そのものの信頼性を揺るがせる深刻な政治的危機だとの指摘が特に反軍政派の政治家や法律専門家らから噴出している。

5月9日に総選挙の確定結果が発表できるのかという不安も含めて、下院での連立工作や上下両院での次期首相選出の以前の段階で、タイ政界が大混乱に陥る可能性さえ危惧される状況である。

〔親軍政派・中立派政党のリーダーたち〕

■ウッタマ・サワナーヨン(博士)　Dr Uttama Savanayana

◎国民国家の力(パラン・プラーチャーラット)党(PPRP)党首
Leader of the Palang Pracharath Party

昨年(2018年)12月に新党「国民国家の力党」の第1回会合で党首に選出された。プラユット首相の続投と親軍政の新政権樹立に奔走する。党首就任時はプラユット内閣の現職の工業相だったが、各方面から批判が高まり、1月下旬に(同党に参加した他の3閣僚とともに)工業相を辞任した。

＊プラユット政権の経済運営を統括するソムキット・チャトゥシーピタック(Somkid Jatusripitak)副首相(経済担当：65歳)は米ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院の先輩に当たる。プラユット内閣では「ソムキット・チーム」と呼ばれる経済閣僚グループのひとりとして知られた。

＊私立・バンコク大学の学長に就任した直後の2015年8月、プラユット改造内閣の情報通信技術相に起用され初入閣したが、16年9月に一旦辞任(詳しい理由は公表されていない)。その後、同年12月の第4次内閣改造で工業相として閣僚に復帰した。

▼データ：【年齢】58歳(1960年5月19日生まれ)【政党】国民国家の力党(PPRP)：党首【学歴】［1982年］(米ロードアイランド州)ブラウン大学卒(電気工学)/［84年］(米イリノイ州)ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院修士(MBA：財政・国際ビジネス学)/(米ボストン)マサチューセッツ大学博士(Ph.D：経営学)【経歴】大学教員・政治家/［2001年］(タクシン政権)(ソムキット)財務相顧問/［03年］首相府政務官/［05年］商業省政務官(－06年)/［07年］「タイ・プロスペリティ・アドバイザリー社」社長(－15年)/［09年］バンコク大学副学長(国際連携)/［12年］同大学執行副学長/［13年］同大学

執行副学長(ビジネス開発・特別プロジェクト)/［15年6月］同大学学長、［8月23日］(プラユット改造内閣)情報通信技術相/［16年9月13日］情報通信技術相を辞任、［12月31日］工業相(閣僚復帰)(－19年1月)/［18年9月29日］国民国家の力党党首に選出(－現在)/［19年1月29日］工業相を辞任【歴任】［2011年］国家科学技術開発庁(NSTDA)防災委員会委員/［12年］「Big Cスーパー・センター」社社外取締役/［13年］タイランド・フユーチャー財団専務理事

■チュリン・ラクサナウィシット Jurin Laksanawisit
◎民主党(Dem)暫定党首 Leader(Interim)of the Democrat Party

2003年から民主党(Dem)の副党首を務める。今回の総選挙で民主党(Dem)が大敗(目標の下院100議席をはるかに下回る50議席代〔暫定〕に留まった)したことの責任をとって、投票日(3月24日)の夜に辞任したアピシット前党首(元首相)の暫定的な後任に就任。アピシット氏が信頼する側近の一人。同党のスポークスマン、下院の与党院内総務、野党院内総務、同党副党首などを歴任してきた同党執行部の「ユーティリティプレーヤー」的な存在。理路整然とした弁舌にも定評がある。
＊民主党は5月9日の選管による総選挙の確定結果発表に前後して、親軍政派政党「国民国家の力党」が主導する親軍政派・中立派の連立に参加するとみられるが、連立交渉での同(チュリン)氏の手腕が問われる。
＊1986年に政界入りする前は「デイリー・ニュース」や「マティチョン」など有力タイ字日刊紙の人気政治漫画家で記者としても活躍。92年成立のチュアン政権で初入閣(副商業相)した時は最年少(当時36歳)だった。旅行ライターとしても多くの著作がある。
▼データ：【年齢】63歳(1956年3月15日生まれ)【生地】南部・パンガー県【政党】民主党(Dem)：副党首(暫定党首)【学歴】タマサート大学政治学部卒(行政学)/国立開発行政大学院大学(NIDA)行政学修士(公共政策・企画)【経歴】日刊紙政治漫画家兼記者/［1986年］下院議員に初当選(Dem：以後9回当選)/［88年］保健相秘書官/［89年］首相府副官房長(政務担当)、民主党スポークスマン(－92年)/［90年］農業・協同組合相秘書官/［92年］(第一次チュアン政権)副商業相/［94年］副農業・協同組合相/［97年］(第二次チュアン政権)首相府相、与党院内総務(－2000年)/［2001年］(タクシン政権)野党院内総務(－05年1月)/［03年］民主党副党首(－現在)/［08年12月］(アピシット政権)教育相/［10年1月］(アピシット改造内閣)保健相/［2011年7月総選挙］下院議員(10期目：Dem比例代表)(－14年5月)/［19年3月24日］民主党暫定党首(－現在)【家族】オーンアノン(Orn-anong)夫人。

■アヌティン・チャーンウィラクン　Anutin Charnvirakul
◎タイ威信(プームチャイタイ)党(BJT)党首
Leader of the Bhumjai Thai Party

下院第5党が確実視される中立派政党で、ブリラム県を中心とする東北タイを政治地盤とする「タイ威信党(BJP)」の党首。親軍政派政党「国民国家の力党(PPRP)」が、下院定数の半数に近い議席を占める親軍政派・中立派連立政権を樹立するために、「民主党」とともにBJPの連立への参加を強く要請しているとみられるだけに、閣僚枠などを巡る交渉でいかに「自党を高く売るか」が党首としての「手腕」の見せ所である(BJPは基本的に「オポチュニスト政党」だが、現在の政治情勢下では親軍政派・中立派連立政権に参加する可能性が高い)。
＊スワンナプーム国際空港建設で知られる交通関連のエンジニアリング、インフラ建設、エネルギー・プロジェクトなどを業務とする大手複合企業「シノ・タイ・エンジニアリング・アンド・コンストラクション社」の社長を務めた実業家で富豪。
＊2006年9月の軍事クーデターに続いたタクシン派「タイ愛国党(TRT)」の解散命令に伴い、(当時は同党の執行委員だったために)07年5月から5年間の公民権停止処分を受けた。同処分が解かれた直後にタイ威信党(BJT)の党首に就任。
▼データ：【年齢】52歳(1966年9月13日生まれ)【政党】タイ威信党(BJT)：党首【学歴】［1989年］(米ニューヨーク)ホフストラ大学卒(生産工学)/タマサート大学経営学修士(MBA)【経歴】実業家・政治家/［1995年］「シノ・タイ・エンジニアリング・アンド・コンストラクション社(Sino Thai Engineering & Construction Public Co. Ltd.)」社長(－2004年)/［96年］外相顧問(－97年)/［98年］副商業相顧問(－99年)/［2004年7月］(第1期タクシン政権第9次内閣)副保健相、［10月］(同第10次内閣)副商業相/［05年3月］(第2期タクシン政権)副保健相(－06年9月)/［07年5月］公民権停止処分(－12年5月)/［12年9月14日］タイ威信党(BJT)党首(－現在)/［19年2月11日］(選管が公表)タイ威信党の首相候補(－現在)【歴任】「タイ・ソーラー・エネルギー社(Thai Solar Energy Public Co. Ltd)」取締役【趣味】自家用プロペラ機の操縦、乗馬【家族】サノンヌット(Sanongnuch)夫人との間に1男1女。父親は「シノ・タイ社」の創設者で、タクシン派ソムチャイ政権末期の2008年12月に首相代行、同政権に続く反タクシン派アビシット政権で11年8月まで内相を務めたチャワラット(Chavarat)・チャーンウィラクン氏。

〔親軍政派連立の支持者〕
■アピラット・コンソンポン Gen Apirat Kongsompong
◎タイ王国陸軍(RTA)司令官 Commander in Chief of the Royal Thai Army

昨年10月の国軍定期人事異動で現職(陸軍司令官)に就任。「政治が混乱すれば国軍の介入は止むを得ない」と言明していることで反軍政派の政治家や有識者からの厳しい批判を招いているが、本人は意に介する様子はない。発言に裏表がなく、その通りに実行すると思わせる「凄み」がある。
＊プラユット首相やプラウィット副首相(治安)兼国防相を中心とする陸軍第2師団(通称「王妃の近衛師団」)の師団長・幹部経験者らで構成される軍閥(「ブラパー・パヤック」)　に所属せず、従来、同師団とは対立関係にある近衛第1師団の師団長・幹部経験者らの軍閥(「ウォン・テーワン」)に所属する。ただ、首相は個人的に同(アピラット)氏に厚い信頼を寄せており、現職に任命したとされる。
＊父親は1991年2月の軍事クーデターで当時のチャッチャイ政権を打倒し、暫定最高決定機関「国家平和維持評議会(NPKC)」の議長に就任した故スントン・コンソンポン(Gen Sunthorn Kongsompong)元国軍最高司令官。当時30歳の青年将校だった同(アピラット)氏にとって、クーデターは「家族の出来事」だったことになる。
▼データ：【年齢】59歳(1960年3月23日生まれ)【生地】バンコク【学歴】国軍士官学校予科卒(第20期生)/［1985年］チュラチョムクラオ陸軍士官学校卒(第31期生)/(米ワシントンD.C.)サウスイースタン大学経営学修士(MBA)/［90年］(米)フォートベニング米陸軍歩兵学校歩兵将校上級課程修了/タイ国軍参謀学校修了/国防大学校卒(第57期生)【経歴】［85年］少尉に任官/米国の陸軍基地2カ所でヘリコプター操縦士の訓練課程修了/タイ陸軍航空センターでヘリコプター操縦士/陸軍の各部局参謀・部隊長を歴任/陸軍近衛第11歩兵連隊第2大隊長/同連隊長(バンコク)/第11師団長(中部・チャチュンサオ県)/国軍第15地区(中部・ペチャブリー県)司令官/陸軍近衛第1師団長(バンコク)/［2016年10月］陸軍第1軍管区(バンコク・中部)司令官/［17年10月］陸軍司令官補/［18年10月1日］陸軍司令官(－現在)【兼任】［2014年9月］国家立法議会議員(－現在)/［15年5月］政府宝くじ事務局(GLO)理事長(－現在)【家族】クリティカ(Dr. Kritika)夫人(博士：チュラロンコン大学経営学准教授)。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)